ヨークピア

編集・発行　公益財団法人横浜市国際交流協会（ＹＯＫＥ）　発行日　２０２４年１０月５日　２７２号

日本人 x 外国人　多文化共生のまちづくりを伝える

ヨークピア

272号
2024年10月



- Contents -

外国につながる子ども・若者支援事業
横浜市国際学生会館　横浜 鶴見の地域で活動・活躍中
国際機関実務体験プログラム2024年度夏期参加者紹介
横浜市多文化共生総合相談センター「相談の現場から」
ウクライナ避難民等支援事業　避難民と公立高校受験

公益財団法人 横浜市国際交流協会（YOKE）
〒220-0012　横浜市西区みなとみらい1-1-1　パシフィコ横浜　横浜国際協力センター5階
TEL 045-222-1171（代表）　FAX 045-222-1187
E-mail　yoke@yoke.or.jp
URL　https://www.yokeweb.com/

外国につながる子ども・若者支援事業



YOKEでは
外国につながる子どものための
学習支援教室や支援者への
サポート等を通じた
子どもへのサポート
を行っています。

「外国につながる子ども」とは、国籍は日本でありながら両親の両方またはどちらかが外国籍である人等、さまざまな形で外国につながる子どもたち・若者たちを指します。さまざまなバックグラウンドや家庭環境など、ひとくくりにできない多様さがあり、地域内外で連携しながら子どもたちと関わり、支えていきたいと考えています。

現在、地域では学習支援教室やそこで市民ボランティアとして活動されている方々など多くの人たちによって、学習サポートや居場所の運営がされています。

YOKEでは、そのような外国につながる子どもへの学習支援を行っている方を対象にした研修会や、市内国際交流ラウンジや学習支援教室の担当者が集まり情報交換や意見交換を行う場などを実施運営しています。



支援者のみなさんが
お互い情報交換や
つながりをつくることを
目的に開催しています



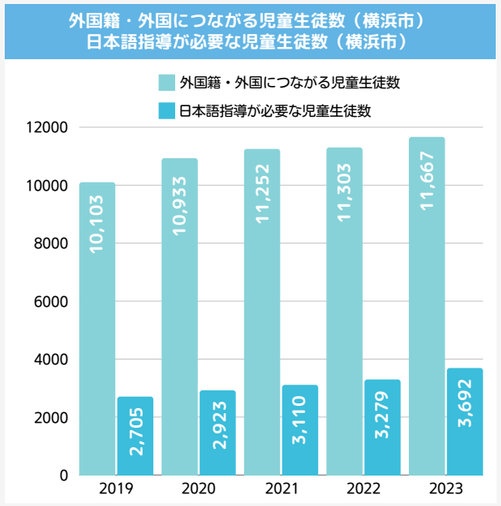
ライフステージに応じた切れ目のない支援

外国人の定住化に伴い、横浜市内の外国につながる子どもの数は年々増加しています。

2023年の横浜市教育委員会統計資料によれば、横浜市立小中学校に在籍する外国につながる児童生徒数は5年前と比べて1,500人以上増加しています。また、その中でもこの5年で1,000人近く日本語指導が必要な児童生徒が増えています。このような背景がある中で、家庭での文化や習慣などの違いから、学校内での教科学習や日本語教育に限らず、成長していく中での日本の生活のあらゆる面で戸惑いを感じる子どもや親も少なくないでしょう。

学校や地域社会で居場所を見出し、将来の展望が持てるように子どもたちの育ちから社会的な自立に至るまでの支援は重要であり、ライフステージに応じて必要なサポートを行うことで生活の質が高まるように支えていくことが大切だと考えます。





毎年5月1日現在　横浜市教育委員会資料をもとに作成

事業を通したつながりづくり

研修会や意見交換の場では、「ボランティア不足の対応方法は？」「どのような教材を使うとよいのか」「ボランティアと学習者のマッチングが難しい」などさまざまな声を聞きます。そのようなニーズや悩みに関して、研修の講師の方々の事例やアドバイスを聞いたり、グループディスカッションなども行っています。実際に教室で日本語を教えている様子の動画を視聴する機会もありました。このような場を通して、支援のヒントを得るだけでなく、さまざまなつながりが生まれることも期待しています。

情報交換会後に他の団体の取組みについての質問が寄せられることもあるので、そこから拠点同士、団体同士のつながりができるようになるともっと良いと思います。



地域社会の多様性に向かって



外国につながる子どもは、地域社会の多様性をひらくこれからの未来の可能性を秘めている存在だと思っております。支援ニーズがより一層増えることが想定される中で、今後も外国につながる子どものための学習支援教室や支援者へのサポートを引き続き行いつつ、新しい事業展開や領域の拡大も視野に入れて進めていきたいと考えております。

外国につながる子どもの可能性を少しでも引き出せるように、ライフステージごとの支援をつないで、市内国際交流ラウンジ、学習支援教室や各関連機関の連携を図り、支援者間のネットワーク を構築していきたいです。

「みんなどうしてる？外国につながる子どもの学習支援教室活動ヒント集」

横浜市内にある、外国につながる子どものための教室で活動するみなさんの声を、情報交換会や研修会、ヒアリングなどを通じて集めました。学習支援活動の多様さ、また何より外国につながる子どもと関わることの楽しさを感じていただければと思います。





こちらから検索してください！

YOKEヒント集

https://www.yokeweb.com/katsudohint/



横浜 鶴見の地域で活動・活躍中！

Yokohama International Student House
YISH
横浜市国際学生会館

横浜市国際学生会館は、横浜市が開設した外国人留学生・研究者の宿泊施設で、横浜市民のみなさんが利用できるホールや学習室等もあります。外国人との国際交流事業や講座を通して市民のみなさんの国際理解・多文化共生への理解増進も目的としています。YOKEは指定管理者として、横浜市国際学生会館を運営しています。今回は、横浜市国際学生会館に入居している学生たちが地域で活躍している様子を中心にご紹介します。

7/27（土） 盆踊り・納涼祭

毎年汐入小学校で行われている盆踊りへ、留学生たちが浴衣・甚平を着て参加しています。今年は焼き鳥の屋台も手伝いました。



ヤコポさん（イタリア／横浜市立大学）
「屋台では、町内の人とイタリアのサッカーの話をしながら焼いていました。焼き鳥を焼く経験ができて、日本の友だちにも羨ましがられました」



陳（チェン）さん（中国／横浜デザイン学院専門学校）
「盆踊りは結構難しくて、体力も大変つかいましたね。でもみんなと一緒に踊って、楽しかったです」

シオンちゃん（エチオピア／家族滞在の小学生）
「盆踊りで先生やお友だちに会えたのが嬉しかったです」

8/3（土） 地域交流会

留学生と地域の方々が各国料理を囲んで交流しました。



潮田西部地区自治連合会 中村会長
「昨年の地域交流会に参加してくれて、今回2度目の方が結構いました。来年も参加してくれると思います。やはり何度もやることが交流を深めることになりますね。参加した人は、留学生と地域で会ったときに話かけやすいし、親しみを感じますね。留学生も同じだと思います」



参加した地域のみなさん
「緩い感じがよかった。言葉がわかる学生さんがいてよかったし、わからなくても何とかコミュニケーションができるので問題ないですね。みな、おだやかな人ばかりですね。お料理がどれもおいしかった。使ったことのないスパイスがよかった」

毎年 7月〜9月 1月〜3月 ホームビジット

春と夏、留学生たちが地域の家庭を訪れています。



ホームビジットボランティアの酒井さん
「節分の日に一緒に恵方巻を作ったり、豆まきイベントへ参加したりと日本文化を一緒に堪能しました！」

日本で 横浜で 就職サポート

学生会館の就職サポートボランティアさんたちが企業選びから面接練習等就職のサポートをしています。



出前授業等



イムランさん
（バングラデシュ／岩谷学園テクノビジネス横浜保育専門学校）
「最初は気が進まなかったけどやってみたらおもしろかった。緊張したけど」

市内の小中学校等に留学生が出向いて、国の紹介と交流を行っています。

6/9（日） 潮田神社祭礼



ジュリアさん（イタリア／理化学研究所）
「お神輿を担ぐのが大変だったけれど、みんながんばりました。とても楽しかったです！」

毎年潮田神社の祭礼で本町通り四丁目のお神輿を一緒に担がせていただいています。今年も約40名の留学生たちが地域のみなさんと一緒にお祭りを思いっきり楽しみました！

秋まつり



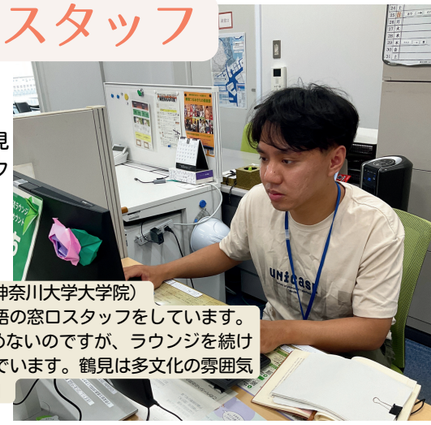


カビタさん（ネパール／岩谷学園テクノビジネス横浜保育専門学校）
「イロイロな国の食べ物が食べられて、とてもおいしいですよ」

毎年9月の後半に学生会館の建物全体で地域の人々に開かれたイベント「秋まつり」を開催しています。学生会館最大のおまつりで、地域のみなさん、留学生、卒業生など多くの方々に楽しんでいただいています（写真は昨年のものです）。国際屋台村やインターナショナルカフェ、ステージなどで世界中の国々と出会えます！

ラウンジスタッフ

学生会館の留学生が鶴見ラウンジの窓口スタッフとして活躍しています。



曹（ソウ）さん（中国／神奈川大学大学院）
「ラウンジで英語と中国語の窓口スタッフをしています。学生会館には2年しか住めないのですが、ラウンジを続けたくて、鶴見に今も住んでいます。鶴見は多文化の雰囲気があって住みやすいです」

RA（レジデントアシスタント）って何？

留学生の生活をサポートするために、日本人学生がレジデント アシスタント（RA）として毎年6〜7名住んでいます。そのうちの１人、横浜市立大学大学院の中原さんに学生会館でのRAとしての生活について語ってもらいました。



会館での役割
留学生に対して就活の面接練習を行ったり、鶴見を案内して周ったり、プライベートな悩みの相談にのったり。ホームページ等広報面のサポートも。

学問＆将来
分子生物学。ヒトの腎臓で機能してるタンパク質に関して研究しています。AIや画像解析を用いて、病気の治療やその仕組みの理解に向けて実験しています。通っているのは横浜市立大学大学院の鶴見キャンパス。卒業後は医薬品メーカーの事務系総合職に就く予定。

YISHという環境で感じていること
第二の我が家みたいな安心感があり、同時にいろいろなことにチャレンジできる可能性をたくさん秘めている。人との関わりの幅が広がって、視野や考え方がアップデートされるだけでなく、好奇心も刺激してくれるので、行動力を上げてくれる。また、図書館や自習室、音楽室など、施設が充実していて、勉強や音楽活動の面で、プライベートな時間もかなり充実している。



RAになりたい人へ
YISHで得られる体験は"国際交流"という一言ではとても表しきれないほど幅広いです。留学生をサポートしたい気持ちや語学に対するモチベーション以外にも、地域を盛り上げたい気持ちやイベントを企画したい気持ちがあれば、ぜひRAに立候補してみてください。RAの仕事は毎年更新されるため、ルーティンワークとは対極です。アイデアを形にしたり、仲間たちと一緒に苦労する経験は一生モノです。

入居を検討している方へ

部屋の中はどうなっているの？



横浜国立大学　経済学部　経済学科DSEP(3年)
髙橋（たかはし）　怜（れい）さん







ウクライナ避難民等支援事業
夏休み宿題教室



実務体験プログラム
中間発表

A1 多文化共生社会は一部の団体や人々が活動するだけではなく、一人ひとりが最低限の意識を持つことにより実現されると考えています。そこで、私もその一助となれるよう必要な心構えを学ぶために参加しました。

A2 国際交流ラウンジでの学習支援と災害時の情報伝達について関心があります。

A3 私は海外での仕事に興味を持っています。そのため、YOKEでの活動を通じて外国にルーツを持つ人々の慣習や考え方について知り、豊かな関係性を築けるようにしたいです。

2024年度夏期実習生を紹介します！

国際機関実務体験プログラム
2024年度夏期参加者紹介

国際機関実務体験プログラム

は、YOKEと横浜国際協力センターに入居している国際機関等及び市内大学が連携し、国際機関等やYOKEでの実務体験を通じ、国際協力や多文化共生のまちづくり等について学生に考える機会を提供する、「誰もが安心して豊かに暮らすことのできる世界」を目指す若者の育成を図るプログラムです。

市内各国際機関等で45時間～100時間の実務を行います。平成16年（2004）年度開始以来、200名を超える学生がこのプログラムに参加し、毎年充実した研修が展開されています。

2024年度夏期では、2名の学生がYOKEでプログラムに参加しました。参加したおふたりをご紹介します!

＜学生のみなさんへ質問＞

Q1 国際機関実務体験プログラムの参加を希望した理由を教えてください。

Q2 今回、関心を持ったYOKEの事業を教えてください。

Q3 YOKEでの経験を将来の自分の目標にどのようにつなげたいですか。

プロジェクト





オリエンテーション



YOKEで事務作業



神奈川大学　経済学部　経済学科(3年)
大石（おおいし）　健太（けんた）さん



A1 多文化共生や地域創生に興味がある中で、そこに向けた事業を行うYOKEでの実務経験を通し自身の知見や将来選択の幅を広げるため。

A2 在住外国人を対象とした日本語教室



A3 私は将来人と人をつなげ、影響を与える架け橋になれたらと考えています。今回さまざまな事業、人々に関わることで多様な視点を得て今後の糧にしたいと考えています。

横浜市多文化共生総合相談センター「相談の現場から」

「横浜市多文化共生総合相談センター」では在住外国人等への相談対応や情報提供を電話および面談により12言語で行っています。ここでは、日ごろから多くいただく問合せの内容とその回答事例について紹介いたします。

Q 私は日本国籍を持っていませんが、以前6年ほど日本で働いていたことがあり、その間は厚生年金を払っていました。仕事を辞めた時に年金脱退一時金を受け取って母国に帰りました。
その後も日本と母国を行き来する生活を続けていて、合計4年ほど厚生年金を払っています。今は日本に住んでいますが、短時間のアルバイト勤務なので社会保険に入っていません。今後、日本で年金を受け取るにはどうしたらいいですか？



A 当センターで対応した際の回答例

年金を受給するためには10年の加入期間が必要ですが、脱退一時金を受け取ると、その期間は年金加入期間としてカウントされなくなります。「追納（ついのう）」や「後納（こうのう）」という言葉を聞いたことがありますか？保険料の支払いの免除を申請し、それが承認されて払っていなかった場合は、10年分までさかのぼって払うことができます。これが追納です。手続をしなかった場合でも、納付期限から2年以内であればさかのぼって払うことができます。これが後納です。これらの制度を利用すると、年金を受け取れる場合があります。

年金制度は複雑ですから、予約を取って年金事務所に相談に行くことをお勧めします。年金事務所の窓口では、10か国語の通訳サービスを受けられます。年金手帳や本人であることを証明できる書類が必要なので、予約するときに確認してください。また、日本年金機構のウェブサイトでは、年金についての情報を多言語で提供しているので参考にしてください。

https://www.nenkin.go.jp/international/

「横浜市多文化共生総合相談センター」
対応日時： 月～金 9：00～17：00／第2・第4土曜 9：00～13：00　※日・祝日・12月29日～1月３日は休み
TEL 045-222-1209　FAX 045-222-1187　E-mail t-info@yoke.or.jp
https://www.yokoinfo.jp

ウクライナ避難民等支援事業
避難民と公立高校受験



横浜市に避難してから、公立高校に入学した避難民がいます。8月22日（木）にウクライナ避難民を対象に開催された「夏休み宿題教室」のプログラムのひとつ「高校進学相談会」で、この春合格した避難民が公立高校受験のための勉強や受験当日の様子について話をしました。制度や言葉が十分わからない中、どのように高校受験合格に向けて取組んだのでしょうか？

Q 受験勉強は大変でしたか？

A
長時間勉強するとストレスになるので、1日4時間ぐらいがいいと思います。
とくに、過去問題を解くのは大事です。MYプラザ*で、受験する高校の過去問に繰り返し取組みました。
*MYプラザ…都筑多文化・青少年交流プラザ（つづきMYプラザ）

Q　日本語の勉強は大変でしたか？

A
はい。漢字を覚えるのに苦労しました。でも、国語の漢字を覚えるよりも、数学の文章題で使われる日本語の表現を覚える方がいいと思います。文章の意味がわからないと、問題を解けないので。

Q　受験するために、どんな書類を集める必要がありますか？

A
奨学金に関する情報など大体の書類は学校からもらえますが、入管に発行してもらわなければいけない書類もあります。私たちはそれを知らなかったので、願書提出しめきり日の前日に慌てて入管へ行きました。その他、Save the Children の情報はYOKEでもらいました。受験とは関係ありませんが、「高校生等奨学給付金」という制度があるので、修学旅行の費用を援助してもらえることも学校から教わりました。

Q 受験の手続きは大変でしたか？

A
担任の先生がとても親切に寄り添ってくれました。受験料を支払うときは、間違いのないよう先生が郵便局までいっしょに行ってくれました。

Q　筆記試験は難しかったですか？

A
英語と数学は簡単でしたが、日本語はむずかしかったです。

Q 面接はどうでしたか？

A
願書といっしょに作文（2,000字）を提出します。作文には志望動機、興味のあること、得意なこと、高校でどんな勉強をしたいか、どんな部活に入りたいかなどを書きます。提出日まで毎日書き直しました。面接では作文の内容について質問を受けました。面接の練習をしたときは上手に答えられたのに、本番では両腕がブルブル震えるほど緊張し、日本語を聞き取れませんでした。
面接官の先生は3人で、1人はとても厳しい先生でした。やさしい先生が1人いて、日本語を聞き取れなくて答えられないでいると、わかりやすい言葉に直して質問し直してくれました。

Q 後輩へのアドバイスがあればお願いします。

A　（保護者から）
準備は早めに。息子は情報がなかったので3年生になってすぐに始めましたが、2年生から少しずつ始めた方がいいと思います。周囲のサポートがあったからうまくいきました。中学校、MYプラザ、YOKEみんなに感謝しています。
学校からオープンキャンパスのリストが配られるので、興味のある高校は全部見学してみたほうがいいと思います。そして、困ったときはラウンジを頼ることです。中学校にも遠慮しないで質問すること、頼むことです。
A　（本人から）
中学の授業は日本語がわからなくて理解できないことが多かったですが、受験のための勉強は全部身についています。
受験勉強は大変ですが無駄ではありません。



＜寄付をいただきました＞

錦海運建設株式会社　様

ご寄付をいただきました。ありがとうございました。寄付金は、ご指定いただきました事業に充当し、有効に活用させていただきます。